

2019 年度
自己点検・評価 報告書

学校法人麻生塾
専門学校麻生看護大学校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、専門学校麻生看護大学校の2019年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2020年2月1日

校 長 安藤 廣美

自己点検・評価責任者
校長代行 藤丸 哲也

目 次

I 教育理念・教育目標(人材育成像)	- 3 -
II 重点項目	- 4 -
III 基準項目 自己点検・評価	- 5 -
基準 1 教育理念、目的、育成人材像	- 5 -
基準 2 学校運営	- 6 -
基準 3 教育活動	- 7 -
基準 4 学修成果	- 12 -
基準 5 学生支援	- 13 -
基準 6 教育環境	- 14 -
基準 7 学生募集	- 16 -
基準 8 財務	- 17 -
基準 9 法令遵守	- 18 -
基準10 内部質保証	- 19 -
基準11 社会貢献・地域貢献	- 20 -
基準12 国際交流	- 21 -

評価結果

S : 達成度がきわめて高い

A : ほぼ達成している

B : 達成がやや不十分であり、若干改善を要する (要観察 : 放置すると不適合になる)

C : 達成は不十分で改善を要する (不適合)

I 教育理念・教育目標（人材育成像）

＜教育理念＞

専門学校麻生看護大学校は、専門職としての看護に必要な、知識・技術・態度を備えた看護の実践者を育成することを目的としている。

本校の教育は、生命・人間尊重に基づく敬愛の精神を基本姿勢とする。さらに専門職業人としての誇りと責任のもとに、叡智と技を磨き、豊かな感性を身につけ、国際的且つ学際的視野にたち、自己研鑽できる態度を育成することを基本理念とする。

敬愛：他人と自己を同様な存在として敬い、深くいとおしむこと。

叡智と技：物事を正しく判断できる力と、理論を基に安全に、正確に実施できる能力。

豊かな感性：外界の刺激を敏感に受け止め、今そこに起こっている現象にたおやかに反応できる能力。

＜教育目的＞

豊かな感性を備え、人間を尊重し、看護に必要な基礎能力を養い、社会の変化に対応できる看護の実践者を育成する。

＜教育目標＞

1. 生命の尊厳に対する理解を深め、人としての権利を尊重して行動できる心豊かな人間性を養う。
2. 人々の健康上の問題に対応するために、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎能力を身につける。
3. 看護職としての役割を認識し、保健医療福祉に対応できる基礎能力を身につける。
4. 看護を発展させるために、常に最新の知識、技術を自ら学び続ける継続的学習の基本的態度を習得する。

【アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)】

本校は、「生命・人間尊重に基づく敬愛の精神を基本姿勢とし、看護専門職者としての誇りと責任のもと叡智と技を磨き、豊かな感性を身につけ国際的且つ学際的視野に立ち生涯、自己研鑽を続ける姿勢を育成すること」を教育理念とし、次のような人たちを受け入れます。

1. 人の生命・権利を尊び、倫理観を大切にする人
2. 人を尊重し、人間関係のより良いあり方に関心を持つ人
3. 学問追求のための努力をする人
4. 主体的に自らの課題を見出し、自己成長への努力をする人
5. 社会のニーズや看護職を取り巻く状況の変化に興味関心を持つ人

【カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)】

本校では教育理念に基づき、敬愛・叡智と技・豊かな感性を身につけた看護師を養成するために教育目標のもと、基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・Ⅱ・統合分野、加えて教科外活動(海外研修、クリスマス病棟訪問等)を構築した。人の一生において、その人らしい人生を送るための支援者としての看護実践者教育を実施します。

【ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)】

アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに沿った教育を行い、次のような人材を社会に輩出いたします。

1. 人間を統合された存在として理解した上で、倫理観に基づいた看護を実践できる人
2. 科学的根拠に基づき、看護を計画的・効率的に実践できるよう探究心を身につけた人
3. 看護の独自の機能を駆使しつつ、多職種と連携・協働する姿勢を身につけた人
4. 社会のニーズや変化に対応し、常に専門職者として生涯学習者の姿勢を身につけた人

II 重点項目

1. 重点項目

1. 小項目2-1-8：学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。
2. 小項目10-1-1：学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。

2. 取組み状況

学校業務を支援する事務組織を十分に機能させるため、2018年度に引き続き業務の見直しと再配分、フローの効率化を行い、その成果としての事務組織全体の残業時間の削減を目標として取り組んできた。慣例によるものではなく、教育効果を勘案し、業務を最適化していくことに努めた。

自己点検・自己評価の実施について、2018年度までは主に管理職が実施し、教職員へはその結果として改善項目を目標に掲げることを周知してきた。全教職員への改善活動への理解、積極的取り組みを促進するため、今年度の自己点検・評価は全教職員が行い、その評価を集約する形をとった。

3. 総括（成果と課題）

事務組織の機能改善について、一つ一つの業務を棚卸し、業務の統合や工程のスリム化を行った結果、事務組織全体の残業時間を削減させることができた。今後は改善した結果の業務の検証とさらなる改善、改善を受けた学校運営管理コンピュータシステムの改修に取り組み、より効率的・効果的業務を行うことにより教育活動の支援をしていくことが課題となる。

自己点検・評価については、教職員の一人ひとりが取り組むことにより、自部門及び自己の役割と業務のみならず、学校運営全体の理解、自己点検・評価活動自体の理解を深めることができた。今後は個々人が学校全体の中の自部署の役割、目標を認識したうえで、改善が必要な項目を意識して日々の業務に取り組むことが課題となる。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

中項目 1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【総括】

法人の理念、学校の教育理念・目的・育成人材像は、引続き公式 web サイト、学生要覧、学校案内パンフレット等で社会への公表を続けている。学校構成員たる教職員には学内掲示、学内専用 web サイトに掲載、入職時オリエンテーションとして説明し周知に努め、非常勤講師・添削指導員・臨地実習指導者には、講師会議等で説明し周知に努めている。

【課題】

学校の教育理念は学生要覧、学校案内パンフレットに記載しており、教職員も常に意識しているが、法人の理念については web 上での掲載のみとなり、日常意識することが無いため、意識が希薄となりがちである。入職時オリエンテーション、学内掲示、Web 上での掲載のみならず、教職員への周知の徹底が課題である。

【今後の取組み】

教職員の法人理念への意識を強くするため、教職員全員が出席する会議の場で年に一度確認を行い周知の徹底を図る。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	A
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-3	各学科の教育目的及び育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

基準 2 学校運営

中項目 2-1

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

運営方針に沿った事業計画を策定し、年度初めに全教職員へ説明し共有を図っている。

学校業務を支援する事務について、業務改善を進めているが、今後もより一層の改善・効率化を図る必要がある。人員の入れ替わりにより事務対応に時間を要するようになり、研修が業務に必要な知識の習得にとどまり、将来的計画が不足している。

【課題】

事務職員の意欲・資質の向上について、業務に必要な知識の習得のための最低限の研修参加にとどまっているため、将来的な成長に向けての育成計画を立案し、個人個人の現在の能力を高めていくことが課題である。

【今後の取組み】

事務組織の機能強化のための改善活動を継続し、同時に学校運営管理コンピュータシステムを改修していき、学校業務支援を効果的に実施できる体制を整えていく。

また、事務職員の意欲・資質の向上のため、現在の職域でのレベルアップ、又は他の学校業務の知識や技能の習得等、個人個人で講習会や研修会へ参加する等の計画を立て、事務組織の強化に取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S
2-1-4	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	A
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	A
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	S
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	A
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	A

基準 3 教育活動

中項目 3-1

教育理念、教育目的及び育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

学校の教育理念、教育目的及び育成人材像に基づくディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを策定し教育課程を編成、実施している。両ポリシーはホームページ上に明示し、社会に公表している。

両ポリシーの検証は、教育内容、教育成果を教務会議にて点検・評価し、本校の教育理念、教育目的及び育成人材像に沿ったカリキュラム・教育課程であるかを検証することにより定期的実施している。

【課題】

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、ホームページ上で明示しているが、学生要覧に「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」という名称が記載されていないため、学生が十分に理解していない可能性がある。学生及び保護者への周知方法の改善が課題である。

【今後の取組み】

新入生及び保護者への周知として、入学前・入学後の説明会にて本校の教育理念、教育目的及び人材育成像のみならず、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについても資料を基に説明を行い、学生要覧へ名称を記載し、在学中も確認、理解が進むようにしていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-1-1	教育目的及び育成人材像に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員（教職員及び学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目的及び育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員及び学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【総括】

教育課程はカリキュラム・ポリシーに基づき、体系立てて編成・実施している。実施した教育については、教育課程編成委員会を実施し外部有識者からの意見も取り入れつつ、教務会議にて進捗状況が計画した進捗表、シラバス通りに進んでいるか、教育内容、方法、指導が適切であったかを評価・検証している。

リメディアル教育は、早期に入学が決定した方を対象に看護に興味関心を持つ教育を実施し、キャリア教育については、教育課程、学校行事を通して職業観や主体的に自らキャリアを切り拓いていく姿勢を身につける教育を行っている。

【課題】

教育方法及び学習指導について、多様な学生への対応は教員の個人の力によるところが大きく、学校としての教育力を向上させるために組織として取り組むことが課題である。

【今後の取組み】

2022年の看護師養成所のカリキュラム改正に向け、本校の教育課程編成の検討を行うとともに、多様な学生へ学校として組織的に対応するため、学会や研修会へ計画的に参加し、報告会・勉強会等で新たな教育手法、学習指導方法を模索、検討していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	教育方法及び学習指導は適切か。	S
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	S
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	S
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	S
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【総括】

教育の評価は、カリキュラム会議にて教育課程全般、教務会議等にてシラバスの評価を行っており、科目ごとの学生による授業アンケート、クラス担任の教員についてはクラス運営等に関するアンケートにて教育方法、スキル等の評価を行っている。外部に依頼している短時間の授業については、試験結果と学生への聞き取りを授業評価としている。アンケート集計の教員へのフィードバック方法に課題があったが、後期結果より教員・科目ごとに検証できるようになったため、次年度の授業改善につなげていく。

【課題】

学生の授業アンケート結果による評価のみでなく、教育内容、教育方法等を他の教員により専門的、客観的な評価をし、教員の授業スキル、クラス運営等の教育力を向上させることが課題である。

【今後の取組み】

通信課程では授業を分野担当教員と補助の二人で担当し授業評価する体制があるが、看護科については、その体制が無いとため、学科内で計画的に専任教員相互の授業見学を実施、他者評価を行い、改善を図るよう取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	A
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

単位認定会議、卒業判定会議は毎年度末に現在の基準に従い厳格に実施している。昨年度、科目の履修、単位認定の規定について、不明瞭な部分があること、進級の規定に関し明確な記載が無いことが課題として挙げられたため、本年度は「科目履修、単位認定及び卒業に関する規程」の不明瞭な規定の明確化、進級に関する規定の明文化、併せて学則との整合性の確認、文言の統一をおこなった。

【課題】

新しい学則及び規程を教職員へ周知し、旧規定との錯誤により学生に不利益にならないようにすることが課題である。

【今後の取組み】

科目履修等に関する新規等を法令及び本校教育理念に則しているか検証し、2020年度より施行。学生へ提示し、単位認定会議、卒業判定会議において、基準通りに適切に実施していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	A
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	A

中項目 3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

保健師助産師看護師学校養成所指定規則、その他学校運営に係る法律、ガイドラインに則り各分野・専門領域の専任教員、非常勤講師、添削指導員を配して運営を行い、カリキュラム上学生に不利益なく適切に実施することができた。

教員の研修に関しては、各人が年1回以上研修に参加するよう研修計画を立て、参加後は学内にて報告会、学習会を実施している。

【課題】

教員の専門性、指導力を高める研修、学会等は参加しているが、臨床から離れ教育経験が長くなった教員に対し、専門分野の臨床研修、他分野の臨床研修を定期的に行う仕組みができていないことが課題である。

【今後の取組み】

専任教員が新年度に能力向上のための研修等への参加の研修計画を立てる際、教員キャリアに合わせた臨床研修の実施計画を立て、研修後の報告会、学習会を実施できる体制、環境の整備に取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	S
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	S
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	A

基準 4 学修成果

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

学修成果として国家試験合格を目標に掲げ、学科の試験、模試の結果を分析、強化が必要な学生へ分野・科目ごとに補講等の対策を講じる体制を整え実行している。看護科は2018年度も100%、通信課程も全国平均を上回る実績を残すことができ、今年度も順調に国家試験に向かい取り組んでいる。他方、退学率の低減課題を残す結果となった。卒業生においては、その多くが飯塚病院に就職していることから、成長キャリアを確認しつつ教育へのフィードバックが出来ている。

【課題】

看護師を目指す意思が低下している学生、学習意欲の低下による、学習理解が不十分な学生を早期に把握、支援ができる体制を強化することが課題である。

【今後の取組み】

学年、クラスごとの学習の進度、授業への出席状況を把握し、教務会議等での情報共有を密にし、学習面で不安を抱え退学に至るのを未然に防止するよう取り組んでいく。看護師を目指す意思が低下している学生に対しての積極的支援策についても教務会議内で議論し、有効な方策を模索していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	S
4-1-2	資格取得率・資格試験及び公務員合格率・コンテスト及びコンペ入選の向上と取組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	S
4-1-3	資格取得等に関する実施体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S
4-1-4	退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	A
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	S

基準 5 学生支援

中項目 5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

学生が修学を継続するために、学生相談室の設置、経済的支援のための奨学金（飯塚病院奨学金、学生支援機構奨学金）・給付金（教育訓練給付金）の活用、健康管理、寮生活、保護者との連携と全般的に支援体制は整っているが、多様な学生への支援についてその運用に課題の残る結果となった。

【課題】

看護師を目指して入学してきた学生を卒業まで導くために、学習意欲が低下している学生、家庭環境や経済的な問題を抱えた学生等、様々な状況に応じた学生支援ができる体制を再検討、運用を強化することが課題である。

【今後の取組み】

クラス担任、学習担当、実習担当を再編成し、生活・健康面、学習面、精神面での細やかな支援・指導が出来る体制を敷く。加えて、学生が抱えている様々な課題を早期に把握し、教務会議等での情報共有を密にし、支援・指導方針の統一を図り、組織全体で退学の防止に努めていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	A
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S
5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	S
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	A

基準 6 教育環境

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

看護師養成に必須の実習室内の設備備品、図書等については、年2回の点検により維持管理を行っている。今年度は情報処理室（パソコン教室）のPCの入れ替え、プロジェクターの入れ替え、多目的教室の天吊りプロジェクターの設置及び音響設備の整備、男子学生の増加による男子更衣室の増設を行い、効果的に学習できるよう環境整備を行った。

【課題】

図書室に設置している書籍、専門雑誌、視聴覚教材について、専門雑誌は定期的に購入、書籍についても新規購入し入れ替えを行い活用の促進を図っている。視聴覚教材については入れ替えが進んでいないため、あまり活用されておらず、学習の理解度を深める補助教材として学生が積極的に活用する環境を整えることが課題である。

【今後の取組み】

視聴覚教材について、分野ごとに教育効果を勘案し、定期的な入れ替えを図書の新規購入と同時に実施できるような仕組みづくりを行い、学生が図書室を活発に利用できるよう取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	A

中項目6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

教育課程に沿った臨地実習を行うため、実習の目的、目標、実習評価等について臨地実習要綱にまとめ学生へ提示し、実習施設及び実習指導者へは実習前に事前に要綱に基づく時期、期間の協議、指導方法の説明等を行い、協定書を結んで実施している。学校における安全管理については、年1回の避難訓練を実施、防火・防犯設備は年2回の定期点検を行い防火管理者が確認を行っている。

【課題】

本校は災害時の避難施設として福岡県の指定を受けているが、教職員、学生へは周知はしておらず、非常食等も備蓄していない。看護専門職者またはそれを旨とするものとして災害に対する意識を高めていくことが課題である。

【今後の取組み】

水及び非常食の備蓄を検討する。現在行っている災害看護の学習、避難訓練、飯塚病院大災害訓練の参加に加え、避難施設であることを周知し、本校の敷地、校舎で実施可能な内容を鑑みて備蓄品の活用及び体験を通して災害について考えることができる行事等を検討する。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	S

基準 7 学生募集

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか。

【総括】

アドミッション・ポリシーは、公式ホームページや学校案内パンフレット、募集要項に記しており、幅広く周知し、募集活動はオープンキャンパスや九州各地での説明会にて本校の教育内容、教育の成果等をより正確に提供するように心掛けている。入学者選考においては、基礎学力、学習継続能力、コミュニケーション能力や学習意欲を評価する基準を設け公正な選考をおこなっている。

【課題】

入学生の中には、専門学校での学習内容等を十分に理解していない学生、看護師を目指す意識が十分でない学生がいる。募集活動において、より分かり易く正確に情報提供していくことが課題である。

【今後の取組み】

オープンキャンパスや説明会、ホームページ等において、本校における学習や生活、卒業生の活躍等はより正確に提供するとともに、看護師の魅力が伝わる内容の情報も提供していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員及び学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	A

基準 8 財務

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

予算計画については、法人の本部から妥当性についてヒアリングを受け年間予算を決定している。また、予算執行についてもヒアリングを受け客観的な検証を行っている。会計処理については、年2回（内部、外部）監査を行い、適切な処理が行われるかどうかの確認を行っている。

情報の公開については、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

【課題】

安定した学校運営を継続していくため、入学定員の確保、退学者の防止に努めることが課題である。

【今後の取組み】

適正な募集活動費用により効果的な募集を行うとともに、学生への学習支援、生活支援が適切にかつ効果的になされているかを検証し、十分な支援体制を敷いていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

基準 9 法令遵守

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」、「看護師養成所の運営に関する指導ガイドライン」、「専修学校設置基準」「福岡県私立専修学校設置認可取り扱い基準」に定められた規定を遵守して運営を行っている。その他、個人情報保護、ハラスメント防止、リスクマネジメントに関する規程、各種マニュアルを整備し、教職員の研修等を行っている。

【課題】

社会情勢の変化により 2022 年度に看護師養成所のカリキュラム改正が行われる。改正に関する情報収集を行い、社会の求める看護師を育てる学校づくりのための準備をすることが課題である。

【今後の取組み】

カリキュラム改正に向け、教育課程編成の研修会の参加、学内での勉強会、検討会を開催する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S

=====
 基準 10 内部質保証
 =====

中項目 10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

教育の質保証の仕組みとして、自己点検・評価、学校関係者評価を行い、ホームページ上で社会に公表している。昨年度の改善項目であった全教職員への取り組みの周知に止まらず、今年度は全教職員で自己点検・評価を行い、教育の質の向上に努めた。

【課題】

全教職員が運営に関する本校の評価基準を理解した上で、自己の業務、自部門の業務のみではなく学校全体について年間を通して自己点検の意識を持ち、改善活動を行うことが課題である。

【今後の取組み】

今年度の自己点検・評価の結果、課題を全教職員で共有し、本校として取り組むべき課題はもちろんのこと、担当者又は担当部署で取り組むべき課題についても、PDCAサイクルを循環させ、改善活動の意識を維持・向上させるよう取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	A
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取り組みを行っているか。	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

社会貢献・地域貢献活動として、行政、看護協会等からの依頼による看護教員教育や准看護師研修会への講師の派遣、高等学校等で行われる職業教育に関する講師の派遣を行っている。学生のボランティア活動も継続して推奨し、地域福祉施設等でボランティアを行い、活動の状況を把握するため記録を取っている。

【課題】

教職員が意識をより高め、学生が主体的にボランティアできるようなる環境を整えるなどの学生支援を強化することが課題である。

【今後の取組み】

教職員が、ボランティアありきではなく、地域に何が必要とされているか、何ができるのかを考え、学生のロールモデルとなりうるよう率先して実行していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	S

基準 1 2 国際交流

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

本校はアメリカコロラド州デンバーにある Spring International language Center (語学学校) への1年間の語学を中心とした留学を平成8年より継続させている。留学生は定期的に学校と連絡を取り、留学先では在住日本人の方へ相談できるなどのバックアップ体制を敷いている。SILCでは本校独自のプログラムとして、医療・看護、社会制度の学習、医療・福祉現場の見学も含む学習が一定条件により可能である。昨年度

【課題】

長期留学は留学に伴う費用及び1年間の休学が必要なため留学を断念する学生もいて、毎年継続して送出不せない状況となっている。

英語や海外、異文化に興味を持っている学生が、より多く留学体験ができる環境を作ることが課題である。

【今後の取組み】

短期留学への参加を促進するため、本校の長期休暇に合わせたプログラムの開発を検討し、一人でも多くの学生が海外体験、異文化体験できるよう取り組んでいく。

日本に留学している外国人の方との交流もグローバルな視点を養う機会となるため、そのような機会が持てるようプログラム案を検討していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	対象外
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	対象外
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S